

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

June / 13 / 2014 # 15

---

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

---

## INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『各楽器の大きな大会』

[2] Pepeのひとりごと

『ディミニユエンド』

[3] おすすめ動画 Trombone Ensemble

『ophicleide clip』

『Opus 333, quatuor de saxhorns - Wagner / Alonso - 59 rue Rivoli』

[4] 演奏のヒント！

『チューニング』

[5] これを吹きたい！ ＊新トピック＊

『Sonata in F (Marcello)』

[6] 編集後記

---

[1] 旬な話題、気になる話題

『各楽器の大きな大会』

この時期、世界各地で各楽器（木管のことはあまり詳しくないのでわかりませんが）の大きな大会が開催されました。

僕が関係していて気にしているのは、Tromboneの大会のITF (International Trombone Festival)と、EuphoniumとTubaの大会の

ITEC(International Tuba Euphonium Conference)です。

2年前の2012年に、その両方の大会をはしごして参加しました。  
そのとき、ITECはオーストリアのリンツで、ITFはフランスのパリでの開催でした。

どちらの大会も世界中からスーパープレイヤーが集まり、毎日夢のようなコンサートやマスタークラスの日々でした。  
時間と自分の体力でどのコンサートを聴くのかを真剣に考えるのは、本当に贅沢な悩みでしたね。 :)

今年のITECには、世界中からたくさんの日本人が参加したようでした。  
こうやって、少しでもたくさんの方が外に出て新しいものを肌で感じてくれるようになるといいなあ、と常に思っています。

ちなみに、僕のITEC初参加は、高校3年生の時でした。  
本当に恵まれた環境にいましたねえ。  
その経験が、その後の僕の生き方に大きな影響を及ぼしているのは間違いありません（良くも悪くも??笑）。

若い人はもちろん、僕の世代の人やその上の世代の人にも、どんどん怖がることなく今まで知らなかった世界を見に行ってもらいたいと思います。  
そうすると、きっと自分の奏でる音楽も人生も変わりますからね！ :D

## [2] Pepeのひとりごと

### 『ディミニユエンド』

ディミニユエンド、聞いたことありますよね？ :)  
このメルマガの読者のみなさんは、きっと意味も知っていると思います。  
そう、「だんだん小さく（弱く）」という意味を持つ楽譜上で使われる言葉ですね。

みなさんは普段、「ディミニユエンド」という言葉は使っていますか？  
僕の周りには、あまりいません。  
もちろん、そういう意味の表現を演奏上ではやっていますよ。  
でも、彼らは違う言葉を使ってその表現をやります。  
わかりますか？

そう、「デクレッシェンド」という言葉です。

「デクレッシェンド」と「ディミニユエンド」、これらを演奏表現で

する場合、意味は同じでいいと思います。

でも、どうして2つの言い方があるのか？

「デクレッシェンド」とは、「クレッシェンド」の反意語です。そう、クレッシェンドの逆の意味になるから、「だんだん大きく（強く）」の逆で「だんだん小さく（弱く）」ですね。

この違いについては、そこまで気にする必要はないのですが、僕は個人的に少し意識するようにしています。

わかりやすく説明すると、「嫌い」なのと「好きではない」という感じでしょうか？（少し強引な例えですが。笑）

なんとなく「ディミニユエンド」のほうが直接的で能動的な感じがしませんか？

「大きくするの反対」という意味と「小さくする」という意味、ということですね。

この理由から、僕は敢えて（少し）意識して「ディミニユエンド」という単語を使うようにしています。

「このような感覚もあるのか」「このように考えている人もいるのか」という感覚で知っておいてもらえるといいかなあ、と思って今日のひとりごとを書きました（笑）。

### [3] おすすめ動画

『ophicleide clip』

<https://www.youtube.com/watch?v=uLLHply7rw#t=13>

今回は、珍しい楽器の動画を2つ紹介しますね。

まず1つ目は、僕と同門で友人のOscar（Abella氏）のオフィクレイドでの演奏です。

オフィクレイドは、普段あまり接することのない古楽器なのですが、なかなか彼のように吹きこなす人はいません。

こうやって聴くと簡単そうですが、そうでもないんですよ（笑）。

Oscar（彼はスペイン人）は、ハンガリー人のRoland(Szentpáli氏)同様、セルパンやオフィクレイドをとっても上手に（簡単そうに！）演奏します。

もちろん、Tubaもすごく上手ですよ！：)

興味のある人は、ぜひオフィクレイドの演奏にもチャレンジしてみてくださいね！！

『Opus 333, quatuor de saxhorns - Wagner / Alonso - 59 rue Rivoli』  
<https://www.youtube.com/watch?v=GGDXT1YCRfQ#t=273>

2つ目の動画は、これまたあまり聴くことのない楽器でのアンサンブルです。

その楽器とは、日本では「サクソルン・バス」と呼ばれている楽器です。

今、フランスでは「サクソルン」と呼ぶことのほうが多いと思います（最近フランスには行っていないのではっきりとはわかりませんが）。正式には「サクソルン・バス」なのだろうけど、今は「サクソルン」というところの「サクソルン・バス」のことを指しますね。

そのサクソルンのアンサンブル、四重奏団（クワルテット）です。この楽器はフランスでしか吹かれていない、学ばれていないので、もちろんこのアンサンブルもフランス発のグループです。

このメンバーとは「会ったら話す」程度の友人なのですが（連絡を取り合っているというほどではない。笑）、こうして遠くの国で彼らの活動を知ることができるのはとても刺激的です。

サクソルンの音は、ユーフォニアムに比べるとはっきりしていて少し固め？愛想が少なめ？？（笑）な感じがしますが、こうして4本集まってアンサンブルをすると、ユーフォニアム4重奏よりも僕は好きです（笑）。

日本にも、フランスで勉強した人をはじめ何人かサクソルンを持っている人がいるので、ぜひその人たちでこうしたアンサンブル・グループを作って活動していただきたいと思います！！

#### [4] 演奏のヒント！

##### 『チューニング』

みなさん、演奏前にはチューニングをしますよね？合奏前の全体でのチューニングでは、一つの音しかしないバンドもあるでしょうし、いくつかの音をするバンドもあると思います。

その時、「ピッチが悪い」や「ピッチが合わない」と言ったりもすると思います。

どうですか？

きっと、多くの人が言っていると思います。

先日、とある高校でのレッスンの時にあるパートにその説明をしたのですが、ピッチと音程の違いってわかりますか？

ピッチ(Pitch)とは、わかりやすく言うと442hzとか440hzとかで表される音の高さのことです（すべての音はこの周波数で表せるのですが、ここでは簡単に説明しますね）。

音程(Intonation)とは音と音との距離（隔たり）のことを表します。簡単に言うと「半音いくつ分離れているか」というような感じでしょうか。

この2つをごちゃ混ぜに認識している人がとてもたくさんいるなあ、とずっと思っていました。

もう一つわかりやすい言い方をすると、ピッチは音一つで高いか低いかがわかります。

音程は、ある音とある音との隔たりのことなので、例えば「ソ」の音が446hzだったとしても、基準としている「ド」の音も同じ446hzだったとしたら、この2つの音の音程は合っているのです。

ということで、ピッチを合わせるということと音程を合わせるということは別の作業になるということがわかるでしょうか。

音程を合わせるのは（だいたいにおいて）個人練習の中で整えていく作業で、ピッチを合わせるのは主に合奏体での作業になることがわかりますね。

この2つのことを別物として意識するだけで、練習が少し変わってくるのでは？と僕は思っています。

できれば、チューナーの使い方も変わってくるといいですね。

またチューナーの使い方についても、近いうち（次回？笑）に書きたいと思っています。

早速今日から、「ピッチ」と「音程」をそれぞれに意識して練習してみてくださいね！！

[5] これを吹きたい！ \*新トピック\*

『Sonata in F (Marcello)』

今回は、もともとチェロので曲あるMarcello作曲の「Sonata in F」を取り上げようと思います。

中・高生でもソロ・コンクールなどで演奏するのにいい曲だと思うので、近い将来ソロのコンクールを受けてみたいと思っている人は、ぜひチェックしてみてくださいね！

全部で4楽章あるので、今回は1、2楽章を取り上げようと思います。

まずはじめに、僕はバロックの曲をやるときには、ピアノなどの低音を常に聴くよう心がけています。

練習の時に、ピアニストに左手だけを弾いてもらっての練習もしてみてくださいね（テンポの遅い曲も速い曲も）。

音程の感覚がなんとなくわかってきたりしますよ！：)

あとリピートをする場合は、2回目には積極的に装飾音符などを（センスよく！）入れて変化させていきましょう！：)

1楽章のはじめは、FからFまで1オクターヴ上がりますね。

その時、音程感を意識して確実に上がるようにしてみてください。

2拍目、表拍のCを、ちゃんと最初の音の5度上というのを意識して吹くだけでうまくいくと思います。

3小節目からのフレーズは、2拍目から3拍目にかけての同じ音Cの音程を少し気にしてみてください。

「歌いながら」吹くと、意外と同じ音程で吹いていない（吹けていない）ことがありますよ（笑）。

6小節目の3拍目のCの音、1拍目のFの音から譜面通りに下がっていくと音程が低くなることがあるので、オクターヴ下のFの音を意識しながら吹き進めて、最後、下のFの5度上のCという感覚で吹くと、音程をはめやすくなります。

7小節目も、1小節目と同じところに注意して吹いていきましょう。

9小節目、音の高低に合わせて吹いてしまうとフレーズラインが不安定になるので、拍の頭の音をつなげて、そのラインを歌いつなげていくようにすると安定しやすいと思います。

10小節目の2拍目、4拍目のCとBの音、最後まで貧弱にならないほうが、曲のテンションを保ちやすくなります。

踏ん張ってみてください！：)

12小節目の3拍目、16分音符すべての音を個々に吹こうとするとメロディーラインが上下に動きすぎるので、頭の中ではF、D、Bの音をとってってください。

そうすると、息のムダ使いも防げますし、4拍目のBの音も安定しやすくなると思います。

2楽章は、まずテンポ設定に気をつけましょう（4楽章も同じく）。

遅すぎると流れが作りにくいですが、逆に速すぎると何を吹いているのか聴いている人たちに伝わりません。  
自分にとってのいいテンポを見つけていくのもとても大切なことです。

タンギングなどの関係であまり速くできない人は、ムリをしないで吹けるテンポでやりましょう。その際、テンポ感を出して演奏するように気をつけてくださいね。  
速くなくてもテンポ感を出すことができれば、Allegroの雰囲気を出すことはできますよ！

逆にタンギングなどで特に問題を感じない人は、ただ速いだけにならないようよく注意してください。  
「流れ」があるかどうか、流れを作るにはどのように演奏すればいいのかをよく研究してみましょう。速く吹ける人は、意外とこのことを気にしないで「吹くだけ」になってしまうことが多いようです。

テンポ感につながるのですが、小節の1拍目に重さ（重心）を持っていくようにすると、流れが作りやすくなって前に進む感じができますよ。  
そうすると、自然に1、2小節目の4拍目にあるようなシンコペーションも自然と重さが1拍目から4拍目に移動していくと思います。

フレーズごとにダイナミクス（音量）が変わっていきませんが、しっかりと大小の差が出るようにしましょう。  
演奏では、自分の中ではしっかりさをつけているつもりでも、実際の音はあまり変わっていない、ということがよく起こります。録音などをして聴いてみるといいですよ。

ポイントとしては、音量の変わり目の「次の音量」だけを気をつけるのではなく、その直前の音量にも気をつけてみましょう。

例えばpからfに変わる場合、fに変わった時の音量だけを気をつけるのではなく、fに変わる直前の音量がちゃんとpのままでいられているのかを気にしてみてください。そうするとはっきりとダイナミクスの変化をつけることができますよ。

もう一つ、ダイナミクスの変化をつける際のヒントを。  
16分音符などの細かい音符の場合、音価を長めに取るようにすると大きな音量の時も小さな音量の時も変化がよく付きますよ。  
ダブルタンギングも、音価を長めに取ってできるようになるまでしっかり練習してみてくださいね。

次回は3、4楽章を取り上げようと思っています。

お楽しみに！

---

## 編集後記

実は今回の「これを吹きたい！」では他の曲を取り上げようと思っていました。

しかし、いざ書こうと思ったら手元に楽譜がなく、急遽Marcelloの曲にしました。

まあ、中・高生がソロのコンクールで吹きそうな曲をやろうと思っていたので、遅かれ早かれこの曲も取り上げるつもりだったのですが、少し焦りましたよ（笑）。

家が狭いため（涙）、日常使う楽譜のみ家に置いていて、他の大量の楽譜は実家に置かせてもらっています。

少しでも読者の皆さんの役に立つことができれば、と思って毎月書いているのですが、いかがでしょうか？  
よかったら感想なども聞かせてください。

日頃直接会う人もいると思いますが、こちらからは誰が登録してくれているのかは全くわかりません。  
読んでる、ということだけでも言ってもらえるとすごくうれしいので、ぜひ一言お願いします！（笑）

---

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

[info@pepeabe.com](mailto:info@pepeabe.com)